

第5回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年8月8日(木) 18時～21時
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館
- ◇参加者 近藤(大阪府立環境農林水産研究所)、小谷・中澤哲(平郡北小)、樋口(平城西小)、新宮(平城小)、高良(筒井小)、中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)、圓山(飛鳥小)、島(郡山西小)、吉田(附属中)、北村・中澤(奈良教育大学) 長谷川(教職大学院)、谷垣(大学院) 山之内・坂本(学部生) 計16名

◇内容

1. ESDと新学習指導要領

- (1) 新学習指導要領の目標：先行き不透明な時代を生きる児童生徒に、どのような状況下でも自己実現できる資質・能力を育成する。
社会に適応できる力の育成というよりは、社会を創る力の育成

(2) 生きる力の構成要素

- ①教科等で養う資質・能力
②全ての教科の基盤となる資質・能力
例えばどのような資質能力でしょうか。

言語運用能力、情報収集・活用能力、問題解決力、コミュニケーション力、論理的思考力等

- ③現代的諸課題に対応できる力
現代的課題にはどのようなものがあるでしょうか？

温暖化、生物多様性の劣化、海洋プラスチック、核兵器、難民、人口爆発、食料問題
資源の枯渇、貧困、多発する自然災害等

(3) 見方・考え方の育成

- ①知識を構造化する(因果関係で結び付ける)過程で養われる教科特有の見方・考え方
②教科横断的な学習による、見方・考え方の融合・洗練化
③実社会を教材にした学習による社会で役立つ見方・考え方への洗練化

(4) ESDで育てたい見方・考え方(ESDの視点)

地域に内在する課題を見いだしたり、地域のよさを再発見したりするときの目の付け所。

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある方がいい	多様性に乏しいのは問題だ
②相互性	つながっている方がいい	孤立している・循環していないのは問題だ
③有限性	ものには限りがある	もったいないのは問題だ
④公平性	世代内と世代間が考えられている	不公平なのは問題だ
⑤連携性	なかまはずれをつくっていない	何かを排除しているのは問題だ
⑥責任性	協力がある・やりとげている	責任転嫁、やりっ放し、言いつ放しは問題だ

(5) ESD で育てたい価値観

- ①世代間の公正
- ②世代内の公正
- ③自然環境・生態系の保全の重視
- ④人権・文化・平和の尊重

○価値観にこだわる理由 ソマティック・マーカー仮説

- ・人は日常生活で直面する多くの出来事を「直感的」に判断している。あるいは、「直感的」に多くの選択肢から限られた数の選択肢を選び出している。つまり、マーク（そのポイントで立ち止まって）して、瞬時に判断を下す。
- ・直感を育てるものには2つある。
生存に関わるもの（人類が100万年間という長い年月の中で少しずつ身に付けたもの）
よりよいものを選択するときにとくさんある選択肢をしばる（その人が経験に基づいて身に付けたもの）
- ・ESDで育てたい「価値観」は日常生活で判断したり、選択したり、行動したりするとき、持続可能性に関わるソマティック・マーカーのような働きをするもの

2. 授業構想案の検討



- (1) 小学2年・生活科・生物多様性：中澤哲
2年生なりの生物多様性への関心・理解
天王寺動物園の獣医さんとの連携
遠足前に事前学習
導入：動物のフンの実物 種によって数、大きさ、形が違う
なぜ、種によって違うのだろう

仮説：食べているものによって違うのかもしれない

模型の歯を比べる

動物とエサを調べる

食物連鎖の先端を位置する肉食動物と底辺を支える植物

- ・生態系のバランスについての学習
 - ・どの種も増えすぎても減りすぎてもよくない
- 動物を大切にする工夫見つけ

○自分の位置をしっかりとおさえておくといいのではないか。人間も自然の一部であるということ。
人間も含めた食物連鎖。

○糞を導入にするのは効果的だ。

○2年生が1年生を教えることをテーマとすることで、モチベーションが向上する。

○子どもの動物に対する思い込みを壊し、よく観察するような指導の工夫が必要。

○「獣医さんの働き」（国語）につなげる

○増えすぎたり・減りすぎたり から すごしやすくなるための工夫 のつなぎ方。

食物連鎖をふまえたゾーンイングや自然環境に近い環境のつくりかた 等の工夫を見つける

○生き物を大切にすることを育てる

(2) 小学4年・総合・秋篠川：新宮



・秋篠川で生物調査（1学期）

・「大和川水系の水生生物」（奈良大博物館見学）

・きれいな水が流れる吉野川源流にふれよう（生物調査）

・森と水の源流館で川の役割を見つけよう 多様な役割があることに気づかせる

・吉野川の役割にジャンプ

・秋篠川の役割を考える（転移）

昔は憩いの場であったが、今はゴミが散乱している 海洋プラスチックの問題にも発展する・自分たちで河原をきれいにしたい ・ 地域会議で提案する

○人間にとってのきれいな川と生き物にとってのきれいな川は差がある。

秋篠川の目指す姿は、どちらにとっていい川なのか？

河原を掃除することで、気持ちのいい場所にし、秋篠川への関心を高める。その後、水質改善の取組につなげていく。

○吉野川との比較はよい。

○森と水の源流館では目的意識を持たせることが重要。「水」をしっかり意識させること。

○こういう取り組みをすれば、生き物がもどってくる、ということはあるのか。そういう生物多様性を豊かにする行動化は可能か？

○現在の秋篠川の役割はなんだろうか？ 水と生き物をつなぐのはよい

(3) 第1学年・生活科・道徳「セネガルの果てまでイッテQ！」：小谷

目標：日本とセネガルとの相違点・共通点、いいところを見つける活動を通して、世界の国々に関心をもつ。

・アフリカ系の国々の単元がある。

・世界の遊びを知ろうの学習がある。

・ALTの先生がウガンダの方

・クラスにナイジェリアの子がいる

・友人がセネガルにいる 写真をみると思っていたのと違うことがいる



いろいろある。友人か友人の婚約者（セネガル人）に教室に来てもらう

・セネガルの遊び

→ ビデオレターで日本の遊びをセネガルの子どもたちに伝える：なわとび・大なわとび

○セネガル・ウガンダからアフリカをテーマにした方がいいのではないか

○視点・資質能力等、E S Dの学びになる。S D G sとの関連として、4教育につながる。

○事前・事後のアンケートをとり、意識の変化を子どもたちに伝えてあげること、学びを実感させる。

（4）第2学年生活科「こうえんはかせになろう！」：圓山

・タイヤ公園：2～3年前にタイヤの遊具が撤去された

・3つの公園を比較する

・ゲストティーチャーとして奈良市公園緑地課

・自治体からの要望でタイヤは撤去されている。

・公園は公園緑地課の人が整備したり、地域の人が花を植えたりしているよ

・ただ公園を使うだけでなく、自分たちも何かできないかな？ 公園の使い方を考え、行動化する。

○公園によって遊びが違う 多様性

○公園のすてき探し 写真、

すべての看板に使い方と奈良市公園緑地課と記されている。子どもの気づきからつないでいくようにした

○学校のブランコと違いがある 安全のためかもしれない
学校の遊具との比較

○公園の様々な性格・多様性にも気づくことができた。



（5）第3学年・総合「金魚すくい選手権」：島



・大和郡山市の伝統・文化としての金魚

・地域の一員として市を活性化するための行動化

・導入：金魚すくい大会

25年前から。今年から世界大会になった。

（留学生、外国人労働者）

・外からの人の声から、大和郡山市の再発見を促す。

・金魚研究家の根来さんの子ども金魚教室、金魚マイスターによる金魚すくい体験

・課題は最近子どもの参加者が減少傾向にあること。

・よりよい大会にするために、自分たちにできることを考え行動しよう。

○イベントを盛り上げるだけでなく、金魚の命という方面から考えさせては。

○すくった金魚のことを考える。

○金魚の歴史と大和郡山市の歴史を重ね合わせてはどうか。金魚大会とは切り離して、金魚文化に親しむ子に。

○金魚すくいに対するバッシング（動物愛護）の事実について考える。



次回、第6回奈良ESD連続セミナーは、9月12日（木）19時～です。
学生の授業構想案の検討を行います。